

1 はじめに

日胆支部は火山や湖、海岸など多様な自然環境が特徴的な地域です。自然豊かな環境であると同時に、災害と隣り合わせである環境ともいえます。今回、私たちの身近に存在する被災リスクについてまとめました。

2 支部内における被災リスクと被害の影響

地震・津波リスク

西胆振は、太平洋沖のプレート境界や日本海東縁の活断層に近く、十勝沖地震（M8.0+）、1993年南西沖地震（M7.8）などが過去に大津波・甚大な被害を引き起こしています。渡島半島西岸では、過去には数千人規模の死者を出した津波の被害も報告されています。近年、発生確率の高い災害の一つに**日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震**があります。しっかりとした対策がない場合、最悪のケースでは約20万人の死者が予想されています。津波により30cm以上の浸水が地震発生から40分以内に生じるなどの基準に該当する特別強化地域（内閣府）に、日胆地域の多くが指定されており普段からの備えが必要です。



火山災害リスク

有珠山は過去**400**年間に **10**回以上噴火している活動的な火山です（**2000**年噴火が最新）。火山灰による農業被害や交通障害、火砕流・土石流（融雪や降雨で二次災害化）による被害を起こします。洞爺湖温泉街や伊達市市街地は「火山防災重点地域」に指定されています。

樽前山は活動的な成層火山で、最後の噴火は**1981**年（小規模水蒸気爆発）です。有史以来、溶岩ドーム崩壊や火砕流を起こした歴史があり、支笏湖周辺に広く堆積物を残しています。今後の噴火では、火山灰の広域降下（札幌・苫小牧・新千歳空港にも影響）、支笏湖カルデラの地形が影響する土石流の発生などが懸念されます。

山間部のリスク

胆振一帯は火山噴出物（軽石層・火山灰）が厚く堆積しており、降雨や地震で崩れやすい状態です。
2018年胆振東部地震では厚真町で大規模な表層崩壊（浅い地すべり）が多数発生しました（死者の多くがこの土砂災害によるもの）。山間部では地震動が地形によって増幅しやすく、揺れやすい地盤と崩壊リスクが重なっています。

日胆支部は「**火山**＋**地震**＋**津波**＋**地形**（土砂災害・液状化）」の災害リスクが同時に想定される地域

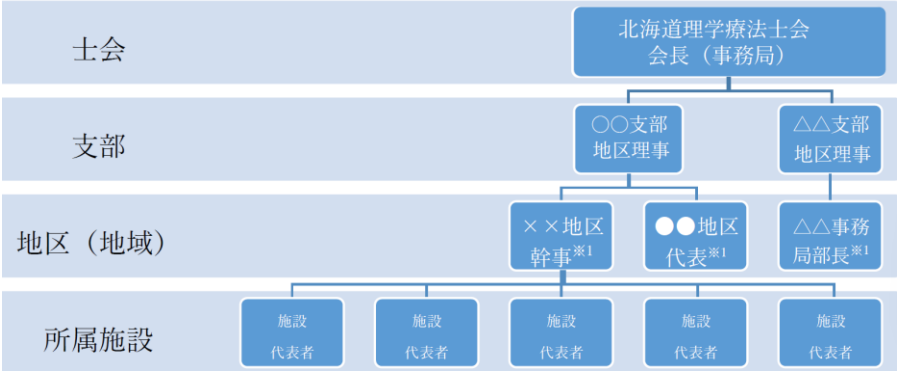
3 胆振東部地震（2018年）

震源は胆振地方中東部で、震度7を記録した厚真町周辺では大規模な斜面崩壊（土砂災害）が多数発生しました。土砂崩れは7,000箇所以上、森林被害は4,293ヘクタール（約44平方km）に及びました。土砂災害では、木造家屋の約90%が「流失・埋没」による被害を受け、犠牲者もこの形態の家屋で発生しました。地震により苫東厚真火力発電所が停止し、北海道全域が停電（ブラックアウト）しました。最大で約295万戸に影響を与え、交通・通信・医療・食品供給などに深刻な混乱が生じました。また札幌など都市部では液状化が発生し、道路の沈下・住宅の傾きなどの被害、ライフラインの復旧の遅れを招きました。震源が内陸寄りに位置したため、札幌市など広範囲に揺れが及び、対応が分散され初動対応が難航しました。

課題：被災会員に他支部の方がよかれと思って、連絡をとりあった結果その対応に追われ混乱（疲弊）させてしまった

大規模災害発生時マニュアルに以下が盛り込まれた。

確認や情報収集作業は支部で実施することに**ルートを一本化**。問い合わせ先となる被災支部地区理事、支部役員に大きな負担がかかることが懸念されるため、平時のうちに各支部で方法を確立しておくことが望まれる（詳細は次号にて掲載します）。



～編集後記～

私たちの身近には自然が多く存在し、その豊かさを感じながら生活していますが、被災リスクも隣り合わせであるということを再認識しました。防災への備えの大切さを改めて感じました。（文責：室蘭地区 岩本 佳祐）。

今後の参考とする為、googleフォームにてご意見・ご感想をお待ちしております（右QRコード）。 

